

学校評価報告

2024年度（令和6年度）における「学校評価」の実勢内容を以下のとおり報告いたします。

2024年度（令和6年度）自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人ひこばえ学園 ひこばえ幼稚園

1. 本園の教育目標

本園はキリスト教精神に基づき、人間性豊かな情操と社会性をそなえた、きよらかで剛健な人格を築くために、学校教育法の定めるところに従って、児童に望ましい環境を設置し、基礎的な教育を行います。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画先生方が研修で受けられたことを活動に取り入れ、子どもたちの興味を広げていっていただきたい。

- ・保育者同士の連携をさらに強化するため、助手とのミーティングの回数を増やし情報を共有していく。
- ・フリースペース（ひこまるの部屋、ホール、屋上・園庭）の使い方を見直し、子どもたちの主体的な活動や経験がさらに深まるように、環境を再構成する。
- ・2歳児、満3歳児と年長児の場の共有について安全面からも工夫し、年長児も低年齢児も安心し思い切り遊べるにはどうしたらよいか検討していく。
- ・ぶどうの会（旧母の会）から引き継いだ活動（友愛セールやひこばえコンサート、聖書の会など）を今後も地域に開かれた活動、そして保護者の交わりや教養の場として新たな形として運営していく。

3. 評価項目の達成及び取組み状況（A=達成できた B=課題が残った C=達成できなかった）

評価項目	評価	達成及び取組み状況
保育者同士協力・連携	B	<ul style="list-style-type: none">・学年の活動内容やフリースペースの活用状況がわかるようにホワイトボードなどに書き込み、園全体の保育を全員が共有できるようにする。・月1回職員と助手全員で集まりミーティングを開く。・縦割り、横割りの活動を子どもの姿に合わせて柔軟に持つようにする。・園内研修を通して保育観の共有し教材などの研究を深めながら連携をはかっていく。
主体的に活動できる環境構成	A	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちがいろいろな素材に触れながら、自ら材料や道具を選んで遊べるように環境をととのえる。また安全面や衛生面にも配慮し環境を構成する。（主にひこまるの部屋）・屋上に畠を設営し、子どもたちが土に触れたり、作物への興味関心が深まるように援助していく。
子育て支援への取り組みや地域に開かれた活動	A	<ul style="list-style-type: none">・預かり保育や未就園児の託児の充実など在園保護者へのよりよい子育て支援の在り方をアンケートなど活用しながら検討する。・園庭開放や未就園児親子の会（あつまれつくしんぼ！）の内容の充実に努め、近隣に住む方の子育て支援の在り方を模索し、園がよりよい支援の場となるように努める。・地域に開かれた活動を行っていく。

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none">・保育者同士の協力・連携についてはホワイトボードの活用や助手全員集まってのミーティングはあまり効果がなかったが、個別でのやり取りや職員間での会話の中で必要に応じて行うことはできていた。話しやすい雰囲気と園文化を大切にしていきたい。保育観（子ども観）の共有や遊びや活動への取り組み、教材研究については職員間でさらに深めていく必要を感じる。・ひこまるの部屋や屋上、ホールなどのフリースペースはうまく活用でき、子どもたちが意欲的に活動する場として環境をつくることができていた。2歳児、満3歳児が安全に遊べる場としては課題が残った。・屋上の畑は学年ごとに種類の違う野菜を育て、収穫する体験をすることができ、また、子どもたちの探求が深まるよう、道具や教材をそろえたり、事前に子どもたちが調べたり、収穫したものを描いたり、調理する活動をすることで、興味を深めていくことができた。・昨年度に続き、園庭開放や未就園児親子の会、プラネタリウム、ひこばえコンサート、ふれあい動物園を開催し、地域の未就園の親子や乳児院の子どもたちが来園する機会を持ちることができた。また、親子わらべ歌の会、絵本ミニ講座、井草教会での礼拝、「きりんほけんしつ」親子講座、友愛セール（フリーマーケット）を開き、保護者の交わりや教養の場を持つことができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
保育者同士協力・連携	<ul style="list-style-type: none">・助手とは保育後は預かり保育のサポートがあり、話す時間が持ちにくいので、登園前の時間に必要に応じて、情報交換の時間を持ち、職員間で共有したことを伝える。・職員会や日々の打ち合わせの時だけでなく、話せるタイミングを見つけて、気づいたことや課題など気軽に話し、意見を交換できる雰囲気や時間づくりを心がける。
主体的な活動と探求を深める環境構成	<ul style="list-style-type: none">・園内研修を定期的にもち、テーマを持って学び合い、保育観や子ども観を共有しながら、教材研究、玩具や道具について、環境構成について、再考し、保育実践につなげていく。・子どもたちが年齢、発達にあつた活動ができるよう、園庭や保育室の環境を整える。・昨年研修を受けた科学あそびを学年別に計画的に取り入れ、探求する力を培う
防災、安全、衛生管理についての取り組み	<ul style="list-style-type: none">・危機管理マニュアルを見直し、研修、訓練を受け、非常時への備えを強化する。・園内の点検を強化して行い、子どもたちが安心、安全に生活ができる場になっているか見直す。・調理活動の衛生管理を徹底する。・子どもたちの活動が制限されないように考える。

6. 学校関係者の評価

園児及び、保護者のためによく検討し、切磋琢磨されておられることを改めて知ることができ、厳しい園経営の中、教職員の方々の努力が素晴らしいと感じた。
・親の都合で預かってもらう保育ではなく、やはり子供の育っていく教育の場が必要。
・安全面について、のびのびと育てるには危険も伴い、その中で学んでいかねばと思う。

- ・卒園生、在園生、保護者が感得している「ひこばえの良さ」「ひこばえらしさ」(キリスト教保育、リトミックからえのぐ遊び、どろだんごつくりなど色々)を発信して、園児数を増やせるようにひこばえ応援団として何かできることがないか考えたい。
 - ・決して多くはない職員数でここまで緻密かつ丁寧な取組、対応ができていることに敬意を表します自己評価を拝見すると、一つ一つ真摯に向き合われていることに感動、このままの姿勢の継続を期待。
 - ・園児一人一人のみならず、そのご家庭の一つ一つにも温かい目を向け、大切にしておられる園の様子をうれしく思う。こういう園は貴重。
 - ・担任の先生と助手の先生との連携に重きを置いてくださっているため、とてもよく情報共有されていて、安心感がある。
 - ・園行事として様々なイベントや講演会を園主催で行っていただけるのはありがたい
 - ・時代は変わりますが、ひこばえ幼稚園らしさ、縦割り保育や先生方の温かさは変わらずいて欲しい
 - ・手厚い保育で現状維持だけでも大変だと思うのですが、常に今の保護者が必要としている子育て支援を考えてください、変わるべきところは変えていこうとしている姿勢にただただ頭の下がる思い。
 - ・評価項目で“主体的に活動できる環境構成”について、娘だけでなく、周りのお友だちを見ても降園時に手にしている工作は一人ひとりの想像力にあふれており、材料や道具、先生方がサポートしてくださる環境が整っている。
 - ・防災・安全・衛生管理への取り組みは保護者として安心感を覚える。
 - ・先生方の良い雰囲気はきっと子どもたちにも良い影響を与えてる。保育者同士の話しやすい雰囲気づくりは、保護者が先生方に声をかけやすい雰囲気づくりにつながっていて、ひこばえ幼稚園らしさとして残していってほしい。
- 先生方が研修で受けられたことを活動に取り入れ、子どもたちの興味を広げていっていただきたい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

2025年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・定期的に園内研修を開催し、環境構成や教材についての研究を行い、保育について語りあいながら、意見を交わし、情報を共有し、保育の質の向上に努める。
- ・縦割りの活動と学年別の活動のカリキュラムを再考し、子どもたちが探求しながら、十分に心と身体を動かして、過ごせるように環境を整える。
- ・危機管理マニュアルを見直し、防災、安全、衛生についての意識を高め、強化していく。
- ・ひこばえ幼稚園の良さを担保しつつ、少子化や共働き世帯が増えた現代社会のニーズに合った新たな取り組みを模索していく。
- ・カリキュラムの中に「科学あそび」を取り入れ、子どもたちの科学への探求心を育てたい。

学校関係者評価委員会

2025年3月21日(金) 18時 幼稚園ホールにて

＜出席＞

飯島淳 市岡雅子 稲垣隆一 小田中修子 小野裕司 斎藤栄一 斎藤佑史 田中正憲 長浜靖子
林小百合 柳下志延

＜欠席＞ 師岡美奈 <書面> 大河京子 長瀬奈緒子